都市再生整備計画 事後評価シート(案) 南部地区

令和7年10月

大分県別府市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県		市町村名 別府市			地区名		南部地区				面積	73ha		
交付期間	平成30年度~令和6年度		事後評価実	評価実施時期 令和7年度			交付対象事業費		316.6	316.6百万円 国費率		0.434			
1)事業の実施状況	4,4-51		事業名												
	当初計画に 位置づけ、	基幹事業	地域生活基盤	地域生活基盤施設(広場)、高質空間形成施設(市道日の出国分町線)、高次都市施設(地域交流センター)											
	実施した事業	提案事業	事業活用調査	(楠銀天街)	舌用検討業務、事	工業効果分析	「調査)								
			事業名						削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から	基幹事業	なし					-				-			
	削除した	提案事業	なし					-					-		
	新たに追加し	基幹事業	なし						-				-		
	た事業	提案事業	なし						-				-		
	交付期間	当 初	平成3	0年度~令	和5年度 交付期間の変更による			事業.							
	の変更	変更	平成3	0年度~令	110		標、数値目標への影響		なし						
					従前			直	数値		目標	1年以内の	効果発現要	因	フォローアップ
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況		指標		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見	,)	予定時期
	指標1	地域交流セン数	/ター利用者	人/年	9,313	H30	10,000	R5		9,928	Δ	あり ●	供用開始当初は利用者数: 和5年度に大幅に利用者が の、目標達成には至らず、 標を達成した。増加要因と 等で常に参加者の意見をB PDCAサイクルを回し、内を ラッシュアップしてきた結果 加者数や教室の開催回数の がったものと考えられる。	増加したもの 令和6年度に目 しては、各教室 引き取りながら を継続的にブ 、次第に新規参	毎年度
	指標2 楠銀天街歩行者数			人/7h	547	H30	600	R6		126	×	あり なし ●	人口減少や工事延伸の影 ケード撤去による日よけ機 通りの減少に影響した可能 の利活用が進み、通りの賑 には、一定の期間を要する	能の喪失も、人性がある。沿道 たいが回復する	令和8年8月下旬
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況		指 標	Ī	単位	従前	直 基準年度	目標値	直 目標年度	サージ 数 モニタリング	<u>値</u> 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見		フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	その他の地域交流センターの維持		千円/年	10,699	R2				9,895			引き続き、利用者ニーズを 境の整備や教室等の開催 続利用者及び新規利用者の る。	こ取り組み、継	-
	その他の 数値指標2 楠銀天街の路線		各線価	千円/m	44.7	H30				45.2			歩行空間の高質化整備や 団体の組成をきっかけに、 促進し、通りの賑わいの回 に、日よけや休憩施設など 向上策を組み合わせ、一定 階的な改善に努める。	沿道の利活用を 復を図るととも 快適性・滞在性	-
4)定性的な効果 発現状況	・複合施設と広場を一体的に整備・活用することで、スポーツや文化活動を通じた多世代交流の場として機能し、地域コミュニティの強化や賑わいの創出に寄与している。 ・多機能な複合施設の整備により、効率的な公共サービスの提供と施設利用の最適化が図られている。 ・市道日の出国分町線における歩行空間の高質化整備と、老朽化した商店街アーケードの撤去により、開放的で歩行者にとって快適かつ魅力的な空間が形成されるとともに、防災性の向上にも寄与している。 ・住民や商店街関係者等と意見交換を重ねながら、市道日の出国分町線の整備や商店街の活用策の検討を進める中で、新たな管理・運営団体が発足するなど、楠銀天街の活性化に向けた機運が一層向上している。														
5)実施過程の評価			実施内容					+m -+	実施状況 今後の対応方針等						
	モニタリング		事業の進捗状況を確認しながら、適宜計画の変更を実施した (計4回)。 構銀天街検討委員会を計4回、楠銀天街意見交換会を計2回実					都市再生整 都市再生整 都市再生整	邓市再生整備計画に記載し、実施できた 邓市再生整備計画に記載しなかったが、実施した 邓市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 邓市再生整備計画に記載し、実施できた						
	取組							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
									市再生整備計画に記載したが、美施できなかつた						
	持続的なま 体制の材		め、今後の取	め、今後の取組みを進めていくための組織づくりについて検討 し、新たな管理・運営団体「BEPPU楠銀通り会」が設立された。 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

南部地区(大分県別府市) 都市再生整備計画事業の成果概要 まちづくりの目標 目標を定量化する指標 従前値 目標値 評価値 大目標:地域資源を活かし、文化創造、魅力的な住環境の形成により移住定住を図り、南部地区の魅力を醸成し、 地域交流センター利用者数 単位:人/年 9.313 H30 10.000 R5 9.928 R5 次世代へとつなぐまちづくり 目標1:多世代が交流し、新たな交流や賑わいを創造するまちづくりの推進 目標2:中心市街地からの流れを考慮し、雇用の創出や活性化を育むまちづくりの推進 植銀天街歩行者数 単位:人/7h 547 H30 600 R6 126 R6 目標3:安全・安心なまちづくりの推進









まちの課題の変化

- ・地域交流センターは保育所・子育て支援センターと一体的に整備され、子育て世代の活動拠点および多世代交流の場として機能しているが、地区の人口減少・少子高齢化の抑制には至っていないため、定住・移住促進の強化が必 要である。
- ・市道日の出国分町線では、歩行空間の高質化と老朽化したアーケードの撤去により快適な空間形成と防災性の向上を実現したが、依然として空き家・空き店舗が多く、沿道の利活用を進めることが必要である。
- ・今後、地域住民や商店街関係者等と一体となって取組みを推進するためには、行政と新たなまちづくり組織等との間で適切な役割分担を図ることが必要である。

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)

- ・地域交流センターでは、PDCAサイクルを回しながら教室内容やサービスの質を継続的に改善することで、新規参加者の獲得と継続利用者の満足度向上を両立させる。
- ・市道日の出国分町線の適切な維持管理による快適性・安全性を維持しながら、新たなまちづくり組織の発足を契機とした空き店舗や空き地への新規出店や既存建物のリノベーションを促進する。
- I・周辺施設との連携やPR、居住環境の改善を図ることで、これらの魅力を広く発信し、来訪者の増加および定住・移住の促進を目指すことで、中心市街地の求心力を向上させる。
- ・行政と「BEPPU楠銀通り会」等のまちづくり組織が適切な役割分担のもと協働し、地域住民や事業者の主体的な参画を促進する。